

厚生文教常任委員会報告事項資料

資料 番号	資 料 名	所 管 課
1	御幸の浜プールの現状について	スポーツ課
2	橘地域における認定こども園整備について	保 育 課
3	小田原市立幼稚園の園児数減少への対応について	教育指導課

令和3年2月22日

御幸の浜プールの現状について

1 概要

市営御幸の浜プールは幼児用プール(Aプール)、小・中学生用 50mプール(Bプール)、大人用 50mプール(Cプール)の3つのプールを有する施設であるが、築50年が経過し施設の老朽化が著しく、修繕をしながら運営を行っている状況である。

特にCプールにおいては発生箇所が不明ではあるが、プールサイド地中に敷設しているろ過循環用配管からの漏水の疑いがあることや度重なる亀裂が同一箇所で生じた経緯もある中、令和3(2021)年1月上旬の施設点検時には、プールに溜めていた水がすべて無くなっていることが確認された。

このような状況から、これまでの漏水が原因で地下の地盤が洗掘され、プール躯体や水の重量で亀裂が生じた可能性があると思定される。

今日まで重大な事故は生じていないが、今後、プール地下の洗掘が原因でプール躯体が砕け重大な事故につながることを懸念されることから、漏水調査や地中の状況調査を行い、今後の御幸の浜プールの運営の方向性を検討していくものである。

2 Cプールにおける主な修繕等対応経緯

平成 18 年度	・プールサイド地中のろ過循環用配管の漏水に係る修繕を実施。
平成 27 年度	・プール内の防水塗装の剥離及び亀裂に係る修繕、防水塗装の実施。
平成 30 年度	・プールサイドの中央部が盛り上がっていることを5月の点検時に確認。 ・平成27年度と同じ箇所に亀裂が生じ漏水していることを平成31(2020)年1月の点検時に確認。
令和元年度	・主たる亀裂部の修繕並びに防水塗装を6月に実施。
令和2年度	・夏季開場期間後半のプール清掃時に、プール内の同じ箇所で若干の塗装の剥離、亀裂が生じていることを確認。 ・壁面に設置している、ろ過循環用給水口下部(満水時での水面から約30cm下りの位置)までプールの水が減ることを確認。 ・プールサイド地中の漏水調査及び地中空洞調査を10月下旬から2月まで実施。

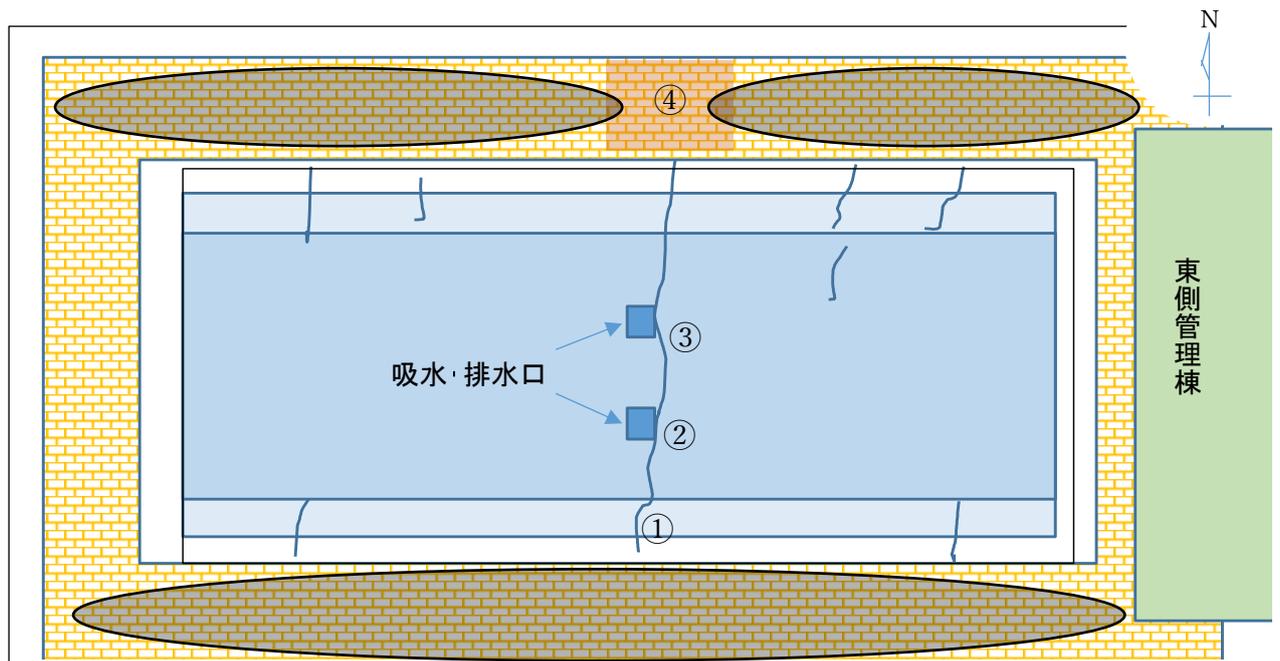
3 近年の御幸の浜プール利用者の推移

年 度	利用者数	開場期間	備 考
平成 27 年度	9,347 人	7月18日～8月31日(45日間)	
平成 28 年度	8,313 人	7月16日～8月31日(47日間)	
平成 29 年度	7,201 人	7月15日～8月31日(48日間)	
平成 30 年度	8,658 人	7月14日～8月31日(49日間)	
令和元年度	8,461 人	7月13日～8月31日(50日間)	
令和2年度	7,783 人	8月1日～8月23日(23日間)	新型コロナウイルス対応

※建設当初(昭和45年度)からの利用者数最大値は、昭和46年度の103,216人であり、以後減少傾向である。

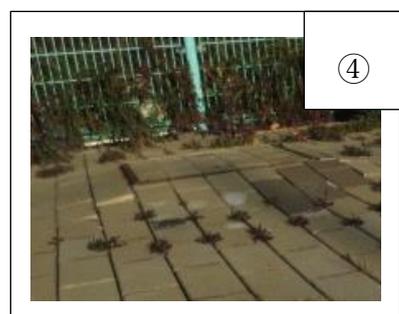
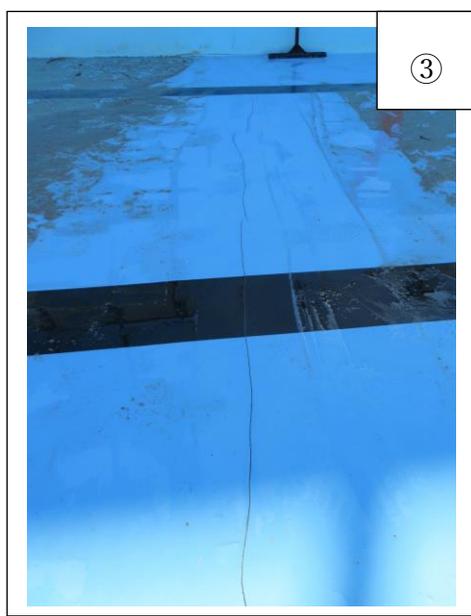
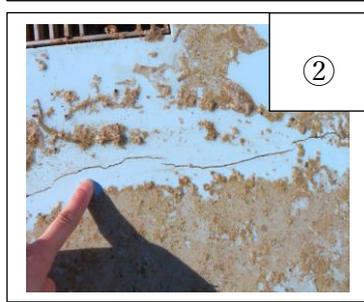
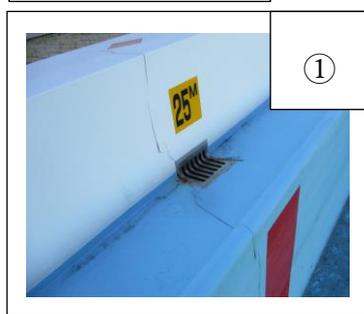
4 Cプールにおける調査業務概要

(1) 平成 30 年度から令和 2 年度上半期までの点検・調査によるCプール亀裂箇所及び漏水確認箇所



: 亀裂
 : 漏水のような音あり
 (漏水箇所特定できず、地中の濡れ未確認)

プール内の亀裂



プールサイドの盛り上がり

(2) 今回（令和 2 年度）調査の概要

①ろ過循環用配管漏水調査業務

契約期間 令和 2（2020）年 10 月 21 日から令和 2（2020）年 12 月 18 日まで

調査方法 循環系統に係る給排水管の漏水箇所を、漏水探知機や音聴棒を用いた音聴工法により調査する。

調査結果 深度約 0.8m で地中の濡れ及び噴射音を確認

・・・ 3 ページ図中「ア」の位置

②プール地中空洞調査業務（プールサイドのみ）

契約期間 令和2（2020）年11月17日から令和3（2021）年2月19日まで

調査方法 第1次調査

探査深度 1.5m程度まで測定可能な小型探査機を用いたプールサイドのレーダー探査測定により、空洞による異常信号の検出と空洞規模の解析を行う。

第2次調査

第1次調査の結果から、異常信号発信箇所の内側スコープ調査を行う。

調査結果 空洞発見箇所は2箇所（民有地側北東部）

空洞厚 0.17m、縦方向 2.5m、横方向 1.4m 体積 0.6 m³

・・・下図「イ」の位置

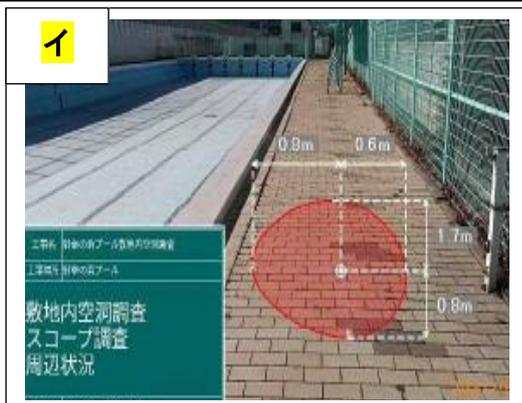
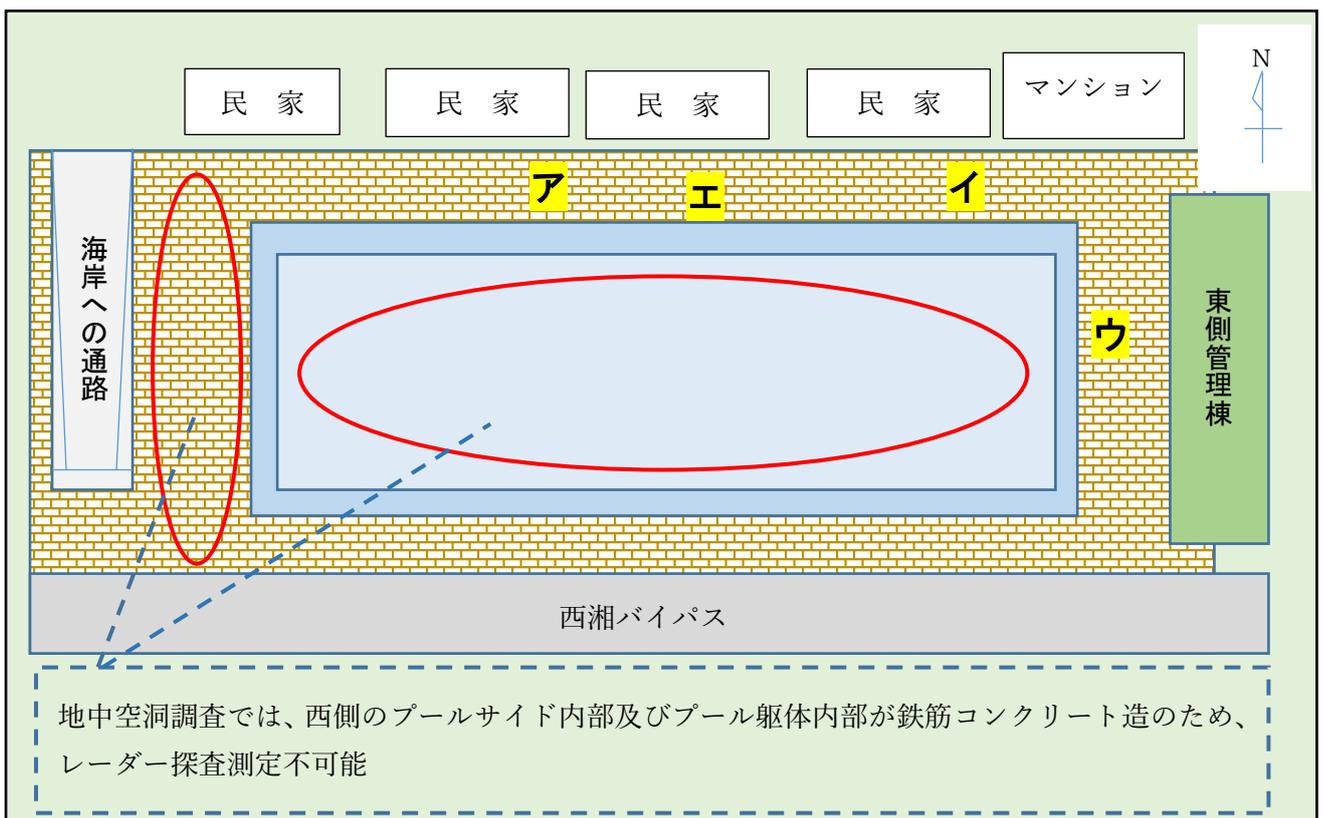
空洞厚 0.13m、縦方向 0.9m、横方向 0.7m 体積 0.08 m³

・・・下図「ウ」の位置

空洞は確認されなかったが、地中が濡れていた箇所

（試し調査として主たる亀裂部の延長部分1箇所）

・・・下図「エ」の位置

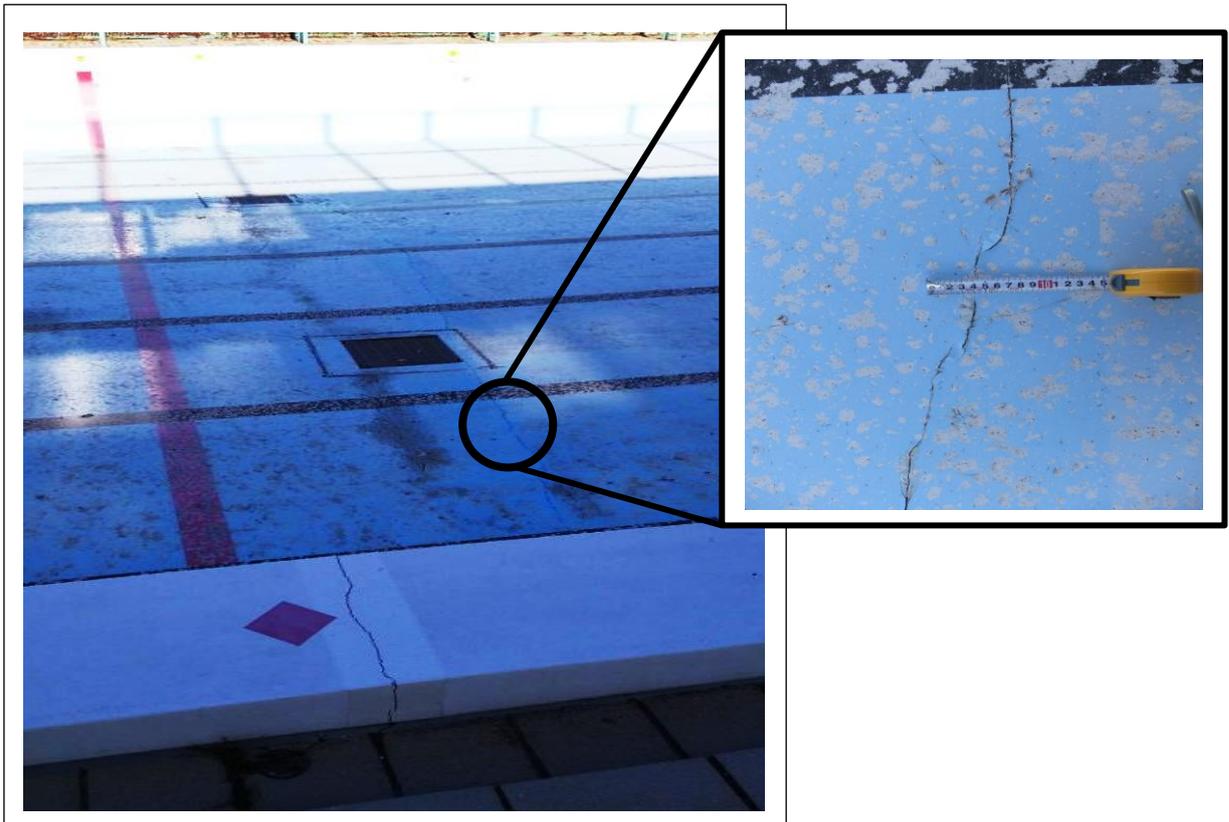


③プール躯体状況及び水量調査

調査期間 令和2（2020）年12月19日から令和3（2021）年1月8日までの
約1週間ごと

調査方法 定期的に亀裂の状況、水位、吸水・排水口からの出水の状況を調査する。

- 調査結果
- ・吸水・排水口からの出水は確認できず。
 - ・亀裂沿いにゴミが溜まる。
 - ・調査期間中、水位は徐々に減少し、1月8日の確認時では水がすべて無くなる。
 - ・亀裂幅1mm～1.5mmの箇所もある。



5 原因究明の措置・対応

今回の調査においては、鉄筋コンクリート造のためレーダー探査ができない西側のプールサイド地中の、ろ過循環用配管等の給排水管の状況並びにプール内部の亀裂部直下（プール躯体の直下）の地盤状況が不明である。

また、Cプールの調査のみ実施したため、同時期に建設したAプール、Bプールを含めた施設全体の状況も不明である。

よって、原因究明とともに漏水に因る地盤の状況、施設の状況等を把握するため、今後、さらなる調査をする必要性も含め早急に検討していくこととする。

<調査方法（案）>

- ・施設に影響がない範囲でプール躯体、プールサイドの一部を掘削し内部スコープ調査等を実施し、地中状況を確認する。

橘地域における認定こども園整備について

橘地域は、地域内の公立幼稚園の利用者の減少、保育所がないという現状の中、令和2年（2020年）3月に策定した「第2期子ども・子育て支援事業計画」において、幼児教育・保育の一体的提供による質の向上と保育の受け皿確保を図るため、認定こども園の整備を位置付けている。

そこで、前羽、橘北の両自治会関係者、幼稚園保護者、子育て世帯等を対象に、前羽、下中の幼稚園2園の統廃合を前提にした整備について、ヒアリングを同年10月まで実施してきた。

子育て世帯を中心に認定こども園整備に期待をする声が多く、今後は具体的な地域調整を進め、開設に向けて取組んでいく。

1 整備内容

- | | |
|----------|---|
| (1) 施設形態 | 幼保連携型認定こども園（保育部：0～5歳 幼稚園部：3～5歳） |
| (2) 整備地 | 橘地域内の複数の市所有地を整備候補地として検討してきた経緯を踏まえ、整備候補地、施設規模等を地域住民に示していく。 |
| (3) 施設規模 | 定員：90人程度 面積：延床1,600㎡程度（最大） |

2 地域調整の進め方

- ・両自治会関係者に対し整備候補地、施設規模等の説明を行い、さらに地域内の子育て世帯対象の説明会や住民向けの説明会を重ね、市方針案の調整を図っていく。
- ・地域の子育て世帯や子育て支援者、公立幼稚園・保育所の保育者による「認定こども園で実現したい幼児教育・保育」をテーマにしたワークショップを実施し、その成果を認定こども園整備に向けて策定する基本計画に反映していく。

3 スケジュール（予定）

令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)
・地域調整	・地域調整 ・基本計画策定	・設計 ・工事	・工事 ・開設準備	・開設

小田原市立幼稚園の園児数減少への対応について

公立幼稚園のあり方については、これまで「今後の公立幼稚園のあり方に関する基本方針（平成 28 年 3 月）」、「小田原市公立幼稚園・保育所の今後のあり方（平成 31 年 3 月）」を策定したほか、現在は、橘地域における認定こども園整備を検討しているところである。

公立幼稚園の園児数の減少は著しく、子どもの健やかな育ちに必要な集団規模を確保することが難しい状況にあり、早急な対応が必要となっている。

1 市立幼稚園の園児数及び学級数

幼稚園	定員	平成 27 年度（2015 年度） （5/1 現在）			令和 3 年度（2021 年度） （見込み）				園児数 減少率 （H27 年度 →R3 年度）
		4 歳児	5 歳児	合計	4 歳児	5 歳児	合計	定員 充足率	
酒匂幼	210 人	49 人	55 人	104 人	26 人	23 人	49 人	23%	53%
		2 学級	2 学級	4 学級	1 学級	1 学級	2 学級		
東富水幼	140 人	42 人	52 人	94 人	27 人	24 人	51 人	36%	46%
		2 学級	2 学級	4 学級	1 学級	1 学級	2 学級		
前羽幼	70 人	8 人	13 人	21 人	3 人	7 人	10 人	14%	52%
		1 学級	1 学級	2 学級	1 学級	1 学級	2 学級		
下中幼	140 人	25 人	18 人	43 人	11 人	8 人	19 人	14%	56%
		1 学級	1 学級	2 学級	1 学級	1 学級	2 学級		
矢作幼	140 人	54 人	62 人	116 人	25 人	24 人	49 人	35%	58%
		2 学級	2 学級	4 学級	1 学級	1 学級	2 学級		
報徳幼	70 人	31 人	34 人	65 人	11 人	9 人	20 人	29%	69%
		1 学級	1 学級	2 学級	1 学級	1 学級	2 学級		
合 計	770 人	209 人	234 人	443 人	103 人	95 人	198 人	26%	55%
		9 学級	9 学級	18 学級	6 学級	6 学級	12 学級		

* 上段：園児数 / 下段：学級数

2 今後の取組

幼児期の教育は、他の園児や様々な環境との関わりによって豊かな感性や協同性といった「生きる力」の基礎を育む大変重要なものであり、適切な環境で教育を行うため令和 4 年度（2022 年度）の園児募集に向けて、令和 3 年（2021 年）8 月頃までに公立幼稚園の園児数減少への対応について指針を策定する。